

moderate beaked, apex notched. Achene rather loosely enveloped, elliptic, trigonous, 1.5–1.8 mm long including beak, ca. 0.8 mm wide, beak slender, 0.3–0.4 mm long. Stigmas 3.

Japanese Name: Koke-hariganesuge.

新和名: コケハリガネスゲ

Distribution: Endemic to Yakushima Island, Japan; marshes and wet places in the mountains, 1500–1900 m in elevation.

Other specimens examined: Japan, Kagoshima Pref., Kumage-gun, Yaku-cho, Hananoego, alt. 1600 m, 24 Jul. 1993, M. Akiyama s n. (KPM-NA 0094450); Kamiyaku-cho, 8 Jun. 2005, H. Ikeda 20400 (OKAY); Hananoego, 27 Jul. 1932, Y. Doi 21 (KYO).

#### 引用文献

- 勝山輝男 2005. 日本のスゲ. 375 pp. 文一総合出版, 東京.  
 Ohwi J. 1936. *Cyperaceae Japonicae* 1. Mem. Coll. Sci., Kyoto Imp. Univ., Ser. B 11: 229–530.  
 Oda J. and Nagamasu H. 2008. Two New Species of *Carex* sect. *Capitellatae* (Cyperaceae) from Japan. Acta Phytotax. Geobot. 59: 55–66.

<sup>a</sup> 神奈川県立生命の星・地球博物館,  
250-0031 神奈川県小田原市入生田 499

<sup>a</sup>Kanagawa Prefectural Museum of Natural History,  
499, Iryuda, Odawara, Kanagawa,  
250-0031 JAPAN;

E-mail: katsu@nh.kanagawa-museum.jp

<sup>b</sup> 京都大学総合博物館  
606-8501 京都市左京区吉田本町

<sup>b</sup>The Kyoto University Museum,  
Yoshidahon-machi, Sakyo-ku, Kyoto,  
606-8501 JAPAN)

植物研究雑誌 84: 193–194 (2009)

### 日本の植物学とローマ字の問題 3. 栽培植物の学名 (金井弘夫)

#### Hiroo KANAI : Japanese Botany and Roman Spelling 3. Scientific Names of Japanese Cultivated Plants

Summary: Advantages and disadvantages of scientific names of Japanese cultivated plants are discussed on the basis of phonetic Romanized spelling of Japanese names.

2007年6月1日NPO栽培植物分類名称研究所(CULTA)の総会が神奈川県大船で行われ,その研究交流会で英国王立園芸協会(RHS)のMark Griffiths氏による「英国における園芸品種命名の事情と問題」と題する講演があった。その中で,日本から輸入される栽培植物の名称について,次のような意見が述べられた。「日本から輸入された栽培植物が流通市場に出されるとき,日本名がついているのだが,それが業者に理解できないため,輸入側が勝手に名前を付けて

市場に出される。従って輸入業者が与えた名前が知的所有権を持って流通し,日本名は無視されてしまう。もし日本側で,国際栽培植物命名規約に則った名前を与えていれば,輸出先で勝手な名前をつけたら,この国際規約を根拠に,莫大な利益を伴う知的所有権侵害で訴追できるだろう」というものだった。この意見には二つのニュアンスがあると思う。

一つは,栽培業者が外国と取引する際に,命名規約に則った栽培植物名をしっかりと付けておけば,得られるべき利益を損なわないで済む,というアドバイスである。私はこの話を聞くまでは,学名にそんな威力があるとは気付かなかった。もしかすると日本の業者は,自分の作り出した品種が自

分の付けた名前が流通するのと、先方で名前を付け替えられて流通するのでは、得られる利益に違いがあるとは知らなかったのではあるまいか、と思った。

もう一つは、輸出先の市場で理解できるような名前を付けよ、と言っているのだと思う。新品種の作出者は、頭を絞って立派な品種和名を作るだろう。しかしそれを外国市場で流通させるためにローマ字化した学名にしても、先方には意味が通じるはずがない。売り上げの成否は、その品種そのものの形質にかかわることはもちろんだが、ネーミングの良し悪しもいくばくかの貢献をするに違いない。ポピュラーソングでも、題名を付け替えたならブレイクしたという話しを聞く。だから、品種和名のローマ字化よりは、思い切ってあちらの人たちの感性に訴える学名を考えたらよかろう。自然種なら和名と学名が異なる綴りや意味を持つのは当たり前だから、違和感があるとは思えない。本誌83巻2号で国際栽培植物命名規約の紹介をしたとき、この線に沿った意見を述べておいた。そうすれば、日本語名のローマ字化などという面倒かつ非実際の規則に煩わされないで済む。現在普通に使われている和名のローマ字綴りの役割は、仮名綴りあるいは漢字綴りの発音記号に過ぎないことは、既に述べた。

一方、同規約には販売名(第12条)という条項があり、「正名が消費者に魅力的でないと考えられたとき、栽培品種やグループを市場に出すため該当正名の代わりにふつうに使われる呼称」が認められているので、この条項を利用して販売名を作るのもよいだろう。Griffiths氏の指摘のはじめの部分

は、このことに触れたものと思う。

「栽培品種名には fancy name (好みの名前) を用いる」という条項があると聞いていたので、これが上記の栽培植物学名のエピソードや販売名と関係あるだろうと、国際栽培植物命名規約の中を探してみたが、用語解説には fancy epithet [好みの形容語] があるものの、それが出ていそうな第V章には見つからず、他のところにもなさそうだった。また手元にあった1995年版国際栽培植物命名規約の Glossary には fancy epithet の見出しはあるが、本文中には見つからなかった。この Glossary における fancy epithet の説明は「a cultivar epithet written in a modern language and not using Latin」である、国際植物命名規約(1994, 2006)の説明は「好みの名前」となっているが条文中には見当たらず、1994年版の第28条2項付記2に「国際栽培植物命名規約1980は第27条において1959年1月1日およびその後発表された栽培品種の新しい形容語は、本命名規約によるラテン語形式の学名の形容語と著しく違う、好みの名 fancy name であることを求めている」とあった。つまり「fancy name」の条項は、最近の規約には登場しないようなのである。しかし「好みの名」という表現は、なんとなく雅名のような印象を持っていたので、上の fancy epithet の説明で、自分の思い込みとは違ったものの、かなり自由な名前がつけられることになってあったものと理解した。

(184) 小金井市  
Koganei, Tokyo,  
184 JAPAN)